



TITLE:

彗星だより

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彗星だより. 天界 1926, 6(62): 148-148

ISSUE DATE:

1926-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160504>

RIGHT:

# 彗星だよ

今年も年初から彗星界は賑しい。去る一月二十日コペンハーゲンから來電があつて、南亞の Blathwayt なる人が一彗星を発見した由を報じて來た。始め、**おとめ座**の西南にあつたが、日を経るに従つて速度を増し、數日の中に**セキスタント座**やし**座**を通過して、二月の初めには既に**かに座**まで來て了つてゐた。京都では二月の最初の一週間目までは天氣都合が悪かつたり、月にさまたげられたりして、餘り多くの觀測は出来なかつたが、二月七日に東京から神田氏の計算された軌道要素が知らされるに及んで位置豫報が確實になり、にはかに 18 センチや、33 センチの望遠鏡が活動を始めた。神田氏の軌道では**（フレテン第 64 號を見よ）**近日點通過が一月の初めとなつてゐるから、今後は遠ざかり光りも弱くなる一方であるだらうが、傾斜角が百三十度に近く、當分は丁度地球の裏側にまはつてゐるから二三ヶ月は少なくとも容易に觀測されるだらう。京都の中村氏は「五センチでも見える」と言つてゐられるけれど、普通の眼力でならば、やはり 10 センチ以下の望遠鏡では、（見えるには見えても）觀測は不能である。

そのうちにタトル彗星は発見されるだらう——どこかで。

昨年発見されたヅンペースブルク彗星が相變らず好く見えてゐる。やはり大體は太陽から反對の天空にあつて、今はし**座**を逆行してゐる。速度は餘り大きくない。今でも可なりの尾を見せてゐる。特に反射鏡による寫眞が見事である。——此の星は、初めから、見えてゐる位置の都合上、軌道の計算が困難で、歐來でも多くの熟練家を苦しめてゐるが、二月の始めの頃、パークレー大學のマクスエル氏の軌道による豫報から餘り大きく離れてゐない事實から見ると、流石にロイシナー教授一派の人々の手腕には感心させられる。最近グリニチのクロンメルン老が發表された軌道の要素は

近日點=1925年10月2.7797日(U.T.)  
 近日點引数=106° 3' 8.1  
 昇交點=334 35 51.8  
 傾斜=49 10 14.6  
 近日點距離=1.560508  
 となつてゐる。

エンソア彗星は未だ見えない。しかし、豫報の如くならば、光度もよほど大きいから二月末から三月の東天を賑はすだらう。位置は**フレテン**を見られよ。

昨年は十二個も彗星が見えたけれど、皆何れも光度が肉眼以下で、アマチュア達を失望させること甚だしい。せめて一つや二つぐらゐは四等や五等級の光りに上つて呉れいと言ひたくなるが、そう無理ばかり通らないものか？

近頃、ちよつと面白い話を聞いた——否實は讀んだのだ。昨年の十一月の中頃、米國ヤークース天文臺でヅンビー教授が発見した彗星は、英國へはコペンハーゲン電報が届かない前に B. B. C. 會社の無線電話局が放送によつて傳へたのだといふ。すると、グリニチでは早速ステヴァンソン氏の宅に電話をかけ、ステヴァンソン氏は直ぐ翌朝果して電報の通りの**りようけん座**に之れを見つけ出したのであるといふ。此のステヴァンソン氏の発見といふことがコペンハーゲン天文臺へは、ヅンビー氏の発見よりも早く知らされたものだから、中央局の人々は、ステヴァンソン氏とヅンビー氏とを共に獨立発見者として取り扱つたのであるけれど、上述の事情が分つて見れば、ステヴァンソン氏は決して純粹な獨立発見者ではないのである。飛んだ間違ひで功名を擔ふことになつたステヴァンソン氏は**笑止千萬**であらう。

何と言つても彗星は愛嬌ものである。いろんな意味に於いて愛嬌ものである。星そのものが、其の運動さといひ、其の風才さといひ、可なりセンセシヨナルであるが、此の彗星が現はれることによつて、人間社會に又いろいろな逸話が生れるから愉快である。人を愚弄したり、興奮させたり、けがの功名を與へたり、笑はせたり、泣かせたりする。（山本）

追記——

タトル彗星が**いよいよ**発見された。時は去る一月十二日、発見者はベルゲドルフの例のパーデ君。やはり、あの百センチの大反射鏡で成功したのだらう。発見當時の彗星の光度が 1.55 等だと言ふから。——いや全くパーデ君の勉強ぶりと F3 の百センチの威力には恐れ入る。星は今とかけ座を去つて、**アンドロメダ**の中を東行してゐる。近日點は四月二十八日らしい。（二月二十日）